

---

# Sっ気彼氏。

叉羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

S っ 気彼氏。

### 【Nコード】

N 7 2 8 6 0

### 【作者名】

叉羅

### 【あらすじ】

自分の名前が嫌いで明るく振舞うことができなくなった少女、

三年になり親友と同じクラス、自己紹介の時がやってきた。

またも失敗してしまうと思われた少女に救いの手が！？

## はじまり（前書き）

この話は実話を元につくられたフィクションです

## はじまり

好きになった彼はドSでした

>  
>  
>  
>  
>

あたし、魁<sup>さきがけ</sup>華は

中三のクラス替えですつと離れていた親友とはじめて同じクラスになった

「きゃー！華と同じクラスだ、やったあ！」

「うわー本当だ、すごー！！」

三年は修学旅行や受験という大きなイベントがあるから親友と同じクラスになれたことがとても嬉しかった

>  
>  
>  
>  
>  
>

「はい、みんな座れー。知ってると思うが三年最後だし自己紹介はじめっぞー」

「いやです」

「絞めつぞこらー」

「あははは」

先生の言葉にブーイングをしながらも自己紹介がはじまった

「あゝ・・・です・・・」

「ゝゝ・・・です」

一人また一人と自己紹介をしていく

あたしにはみんなの自己紹介を聞いてる余裕はなかった

それは自己紹介がとても嫌いだからだった

あたしは学校ではおとなしいグループに入っていて

目立たなく、あたしがいなくなっても誰も気づかないぐらいの存在だ

でも、最初からこんな性格だったわけではない

小学校の頃はそれとなくクラスのやんちゃなグループに入って

男子とは追いかけてこもしていた

クラスの友達としゃべるのはとても楽しく、親が離婚してこんな魁さきがけ

なんて変な名字になってもみんな何も言わないでいてくれた

恋だっでしていたけど

保育園のとき好きだった結城くんは小学校に上がる頃にはいなくなっていたし

小五の時に告白した祐也くんも、付き合ってみてから気まずくて一回もしゃべらずに自然消滅したようだった

その頃から ああ付き合っでてことは絶交っでてことなのかなと思ひこみ

そのまま小学校を卒業した

中学一年になっでてもたも親友の鮎沢雪と同じクラスになれず自己紹介の時間がはじまった

ああなんて言おうかな気の利いたこととか言えないしなあ

あ、あたしの番だ

「はじめましてっ！さきがけはな魁華さきがけはなっでいいいます！これか・・・」

そのとき、私ははつきり聞こえてしまった

「変な名前」

ほんとに小さい声で誰も聞こえてなかったみたいだった  
自分のことだからすごく大きく聞こえた

やっぱりわかってても言われるとすごくつらい  
小学校のみんなが気を使ってくれていただけだ。

とりあえず早く自己紹介を終わらそうと思ったが声が震えていたら  
どうしようとか、考えすぎて声が出せなくなった

「?どうした、魁」

「なんなの後がつまってるよ」

「早く終わらせようぜ、なあ!」

みんなが騒ぎだしたところでやっとのおもいで声を絞り出した

「あ……こ、れから……よろし……く、おねが……いしま……す……」

「くっすらあ」

「ばか、聞こえてるって」

騒然とする教室の中あたしはもうなにも聞こえなかった

>>>>>>>

い・・・

お・・・

「おい！！！！！！！！華！！！！！！！！」

「うわあ、え何」

「次華の番だよ」

「えっ」

昔のことを思い出してるうちに自分の番が来ていたなんて。  
また何も考えられなかった

あれからクラスの人などはうちとけれず、今の状態になってしまったから

今度は声を出そうと頑張ったが

「えーと・・・」

「もつと大きな声でなー。」

先生の声で消されてしまう



「……………魁華です…っこれからよろしくおねがいします…」

自分の中でMAXの声を出して自己紹介をした

「変な名前」

「暗いし」

でもやっぱり、だめだった

あたしだめだな…

そうかんがえてると

「え、なんでカッコイイじゃん。さきがけ！俺、婿候補するw」

はじめて言われたことに驚いたまま声のさきをみると、

そこに五十嵐<sup>いがらししゅう</sup>執のすがたがあった



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7286o/>

---

Sっ気彼氏。

2010年11月5日20時28分発行